

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	1473800421
法人名	社会福祉法人 秀峰会
事業所名	グループホーム 都筑の春
訪問調査日	令和3年9月13日
評価確定日	令和3年10月28日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は20項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

令和3年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473800421	事業の開始年月日	平成15年1月1日	
		指定年月日	平成27年1月1日	
法人名	社会福祉法人 秀峰会			
事業所名	グループホーム 都筑の春			
所在地	(224-0001) 横浜市都筑区中川4-20-11			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	令和3年9月3日	評価結果 市町村受理日	令和3年11月1日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は横浜市郊外に位置し、四方を緑に囲まれた田園地帯の環境の良い場所にある季節を肌で感じられる平屋建て二棟のホームです。自然に恵まれた環境の特性を活かし、門扉、玄関を施錠することなくどなたでも自由に出入りが出来るようになっていきます。又、利用者個々の自主性、自立を尊重した日常生活が送れるように支援させて頂いており、家事や生活動作を主体的に行って頂いている。アニマルセラピーとして施設犬の「シュン」が利用者のアイドルとして日常に彩を添えています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒231-0023 横浜市中区山下町74-1 大和地所ビル9F		
訪問調査日	令和3年9月13日	評価機関 評価決定日	令和3年10月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は、社会福祉法人秀峰会の経営です。同法人は、横浜市を中心に介護・医療・保育・障害者・障害児支援サービスを展開しており、介護事業では、居宅介護支援・訪問介護・夜間対応型訪問介護・定期巡回・訪問介護・特別養護老人ホーム・グループホーム・ショートステイ・デイサービス・小規模多機能型居宅介護といった多岐に亘る介護事業を展開しています。その他にも、クリニック・訪問看護、保育園、障がい者・障害児支援サービスなど、包括的・統合的な福祉サービスを提供しています。ここ「グループホーム都筑の春」はブルーライン「中川駅」から徒歩10分程の都筑区内で4番目に大きい山崎公園の中を抜けた早淵川沿いに位置し、周囲は田んぼや果樹園に囲まれ、車通りも少ないことから散歩に適した環境下にあります。

●事業所では新型コロナウイルスの感染防止対策、外国人職員の雇用受け入れ、職場の環境整備に注力して取り組んできました。感染防止対策では、法人の事業部で作成されたマニュアルや行政からの情報収集を行い、様々な感染症対策を講じ、外国人の職員でもわかりやすいようにコミュニケーションの取り方の工夫、職場の環境整備では職員の家庭事情を考慮し、業務改善を図り職員の負担を軽減することで、家庭と仕事を両立させながら長く働ける環境を整えています。

●職員の教育については、新人研修、中堅職員研修、管理者研修など、法人内で職員の知識や経験などの階層別に応じた研修制度がありますが、重度化した際の利用者の対応においては、全職員が統一して同じ対応が求められるので、事業部研修のみならず、事業所内研修でも重度化した場合の対応にフォーカスして取り組んでいきたいと考えています。また、感染防止のため、新たにオンライン研修を導入するなど、新しい研修スタイルを確立して職員の資質向上に取り組んでいます

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム都筑の春
ユニット名	東の家

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を踏まえて日々のケアを実践しています。 1、人間が主体である 2、連帯の輪を無限に広げていく 3、日に日に新たな今日を創造していく	事業所では、法人の理念「人間が主体である・連帯の輪を無限に広げていく・日に日に新たな今日を創造していく」を踏襲し、利用者の主体性を尊重し、地域との交流を通じて関わりを広げ、日々新たな気持ちで1日を過ごせるよう支援しています。		今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会にも加入し、町内会との交流も深まってきている。 地域の祭り等は新型コロナにより中止が多く、交流はできていないが町内の落ち葉拾いや清掃などには参加している。	自治会に加入しており、町内会との交流も年々深まってきています。コロナ禍のため、現在は地域の行事や地域の方を招く行事、近隣中学生の職場体験の受け入れなどは中止となっていますが、町内の落ち葉拾いなどの清掃活動には参加しています。さらに、毎年地域の小学校に出向いて認知症についての講演を行うなど、積極的に認知症の啓蒙活動に取り組んでいます。		今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の中学校の職場体験を受け入れており、介護の基本等を伝えるようにしている。(中止となっている) また毎年地域の小学校に認知症について講演している。(昨年は中止、本年は開催予定) 地域により近い存在を目指している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	知見を有する方々が参加されていることで災害時の対応など具体的な協議ができ防災訓練などの参加を呼びかけている。 身体拘束等の適正化委員会への意見を頂いている。 現在書面会議にてご意見いただいている。	町内会長、民生委員、都筑区職員、地域包括支援センター職員、利用者家族、利用者をメンバーとして2ヶ月に1回開催し、事業所の現状や活動報告、地域の情報や災害時における対応についても協議しています。また、合わせて身体拘束等の適正化委員会も開催し、身体拘束等に関する意見もいただいています。現在は感染防止のため、一堂に会さず書面にて意見をいただくようにしています。		今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括センター職員に運営推進会議への参加をお願いしている。 ケアプラザのサロンへ毎月ご利用者と家族と参加するようになった。(現在中止)	横浜市や都筑区から研修や講習会の案内が届いた際には職員に周知し、内容に応じて参加を促しています。また、区の担当者をはじめ、地域包括支援センター職員には運営推進会議にも参加いただき、事業所の実情を把握していただいています。毎月ケアプラザのサロンに利用者や家族と参加するようになりましたが、現在はコロナ禍のため、参加を見送っています。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の定義を理解し、現場において同様のことが無い様にケース会議にて情報を共有している。身体拘束等の適正化に関する指針を設け委員会を設置し、多岐にわたるテーマで意見交換をしている。	身体拘束廃止委員会を設置し、3ヶ月に1回以上、事例などを持ち寄りながら第三者も交え話し合いを行い、身体拘束の定義を再確認するとともに理解を深めています。また、事業所・事業部研修にて年2以上は身体拘束について学ぶ機会があり、参加した職員は全体会議の中で伝達研修を行い、職員に内容を共有しています。	今後の継続
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業部研修、外部研修等に参加している。又、研修内容を事業部内で共有し意識している。高齢者の虐待に係る点検、アンケート実施後、職員会議にて話し合っている。	高齢者虐待防止についても身体拘束と併せて研修を行っています。また、虐待防止アンケートなどを活用して勉強会を行い、虐待の種類や該当する行為、ケアの中で虐待に該当する対応がされていないか確認しています。さらに、職員会議の中でも気になる対応や言動について話し合い、共通認識を図っています。	今後の継続
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業部研修、外部研修等に参加している。又、研修内容を事業部内で共有し意識している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に十分に時間を取り、随時に質問を受け、不安や疑問等に説明する機会を設けている。改定時には文書にての同意、家族会にて説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等に話を聞く機会を設け、意見をカンファレンスにて共有し検討している。また年に2回の家族会を開催しており（現在は活動報告書での対応）運営方針の再確認や意見を取り入れている	契約時に重要事項説明書に明記している苦情相談窓口について説明しています。家族からの意見や要望は家族の来訪時や電話連絡した際に、近況報告と合わせて伺うようにしています。また、運営推進会議に参加いただいた家族からも意見や要望を伺っています。さらに、事業所では年2回家族会を開催しており、一家族ずつ話しを聞く機会を設けています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なカンファレンスの場を設定し、情報収集を行い検討している。 また随時職員と個別でのヒアリングの場を設けている。	職員の出退勤時、業務や休憩時間の合間などの時間でも職員から意見や提案を聴くなどして、働きやすい環境づくりに努めています。月1回の正職員会議では現状の課題や職員から挙げた意見や提案について意見交換を行い、業務やケアに反映させています。必要に応じて職員と個別に話しを聴く機会を設けています。	今後の継続
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	残業時間の軽減や有給休暇の取得を呼びかけ健康管理に努めている。 資格により給与が上がるシステムがありより上級の資格を取得できるよう支援している	法人では半期ごとに正職員を対象とした評価制度を導入し、年2回の職員面談で実績や個人目標の達成について評価を行い、昇給昇格へ反映させています。また、全職員に業務改善のためのアンケートを実施し、やりがいや向上心をもって働けるよう努めています。	今後の継続
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護人材が育たない、足りないなかで、外国人職員の雇用が必須となっている。 ご利用者様、日本人職員とのコミュニケーション、環境改善に努めている。 外国の方が安心して働ける環境、日本人職員が教育しやすい環境づくりを心がけている。	法人では新人研修、中堅職員研修、管理者研修など、職員の知識や経験などに応じた研修があり、職員の階層に応じた研修への参加を促しています。また、人材不足が深刻化し、外国人職員の雇用が必須となっている中で、外国人職員が働きやすいようコミュニケーションなどの環境改善にも努めています。	今後の継続
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GH連絡会、ブロック会等に可能な限り参加しネットワークを築けるようにしている。 区の研修や消防署の意見交換会などでも顔を合わせる機会が増えている。 (現在はリモートでの交流となっている)		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人や御家族からの情報を素に安心して生活していられる場所である事を受け入れて頂けるよう声の掛け方、傾聴の仕方を工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や契約の折に状況を聞く機会を設け、御家族の不安が最小限になるように努めている。段階ごとにご様子を連絡し、気兼ねなく面会に来れる様配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現段階で何が必要で、何ができるかを考慮した支援に努めている。 P D C Aを1ヶ月を目安に行い、介護計画を更新する。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意思を尊重しながらも職員が寄り添い、生活を共有する関係を築いている。 半面馴れ合いに成らないよう、利用者とサービス提供者という位置づけは忘れないよう周知している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人が自己実現を叶えるための一翼を担っているのがご家族であることを、常に発信し続けている。 状態の変化や認知症への理解を適宜報告し円滑な家族関係になるよう支援している。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個人情報保護を念頭に置きながらも、面会等の制限をせず、交流を保てるように支援している。	馴染みの関係を入居後も継続していただくため、契約時には差し支えない程度に友人や知人に入居したことを伝えてくださいと声かけしています。また、入居時のアセスメントで、本人にとって馴染みの場所や人、趣向などの情報の把握に努め、馴染みの場所にお連れしたり、趣向を継続できるよう支援しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性等も考慮しながら職員が介入してご利用者同士が交流を図れる様にしている。 家事活動やレクリエーションを中心に利用者同士がこにゆにケーションを取れるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も郵便物の転送を行ったり、必要に応じて電話連絡も行っている。 また退去後も質問などあった際は助言を行っている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のやり取りからご本人の意向を把握している。 又、極力ご本人本位に検討している。 一人一人の尊厳を維持していくために日々尽力している。	入居前面談で、本人、家族、在宅時のケアマネージャから、過去の生活歴や既往歴、趣味嗜好、暮らし方の希望などについて聞き取り、思いや意向を把握しています。入居後は事前面談で得られた情報を基に関わりながら、言動や表情から今の思いの把握に努めています。会話の中で得られた情報、職員の気づきは申し送りや個人記録などを活用して、情報共有を図り、一人ひとりの尊厳を尊重したケアにつなげています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に情報収集している。 また、ご家族の面会時も適宜生活歴や嗜好など伺っている。また若いころに好きだったことなど思い出せる様支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日勤、夜勤の申し送り等で個々の身体情報を報告している。 どのような言動がありどう行動されたか個人記録などに残しケアに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリングによりカンファレンスで情報を共有し、検討したものをアセスメントにおとしこみ、介護計画に反映させている。かかりつけ医師、歯科医師、定期訪問看護師、訪問マッサージの意見を介護計画に反映している。	入居時のアセスメントで得られた情報を基に初回の介護計画を作成し、暫くの期間は様子を見ながら、ADL・IADLの情報や、暮らしぶり、現在の心身の状態を把握したうえで、ケース会議を開催し、ニーズや本人の心身状態について再度アセスメントを行っています。介護計画の見直し時には、家族、医療関係者の意見を反映させ、利用者ごとに必要な支援が提供できるようにしています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の情報を共有して見直しに活かしている。排せつや水分表など個別に必要な方へのアプローチも行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	マニュアルも重要視し、尚且つ柔軟に対応している。ご家族の希望により入浴サービスも取り入れている。訪問歯科、訪問マッサージなど必要に応じ対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方にて多彩な活動を行い（現在は中止）ご利用者の生活が豊かになるように支援している。職員に書道の師範がおり、定期的に行っている。職員や家族も地域資源と考えている		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内の医療連携充実に伴い、主治医、看護師とも良い関係が築けている。又、定期的な訪問受診により適切な医療を受けられる様支援している。	入居時に法人の協力医療機関「みずほクリニック港北」について説明した後に、本人と家族の希望を伺い、主治医を決めていただいています。協力医療機関からは月2回の訪問診療がありますが、他科については家族対応による受診をお願いしています。看護師は週1回来訪して、利用者の健康管理を行っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に看護職員が訪問し、ご利用者の健康状態を把握し、介護職員とも情報交換をし情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時等に必要な情報を速やかに伝え、病院窓口とも関係を密にできるように心がけている。退院時の調整など迅速に対応している。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約の際、重度化・終末期に関わる指針を示して説明同意を得ている。 家族会、かかりつけ医と家族の面談の機会を設けている	契約時に「重度化や終末期に係る指針」に沿って事業所が対応可能な範囲について説明し、納得していただいたうえで同意書を取り交わしています。状態の変化が生じた場合は医師を通して状態を説明していただくようにし、看取りを行う際には、医療機関と連携を図りながらスムーズに対応できる体制を整えています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、職員が共有している。定期的訓練ではダミーを使い救命措置が行えるよう訓練している。 地域消防団の協力で救命、救急訓練依頼をしたが、コロナ禍により延期。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回の定期訓練を行っている。地域とも相互に援助できるように話し合いを行っている。 火災だけでなく、水害、地震、防犯の訓練も実施を予定している。 新型コロナウイルス等感染症対策も必須となっている。	事業所では、年4回程度の避難訓練を実施しており、火災、地震、水害、防犯を想定した訓練に加え、ダミー人形を用いてCPR訓練も実施しています。また、運営推進会議を通じて災害時における協力体制についても話し合いを行っており、相互の協力体制も確立しています。新たに現状の社会情勢を踏まえて、新型コロナウイルスなどの感染症対策(発生時における)も必要と考えています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの概念を理解しご利用者を尊重する対応を行なっている。 概念だけでなく、自分だったらどう感じるだろう。ということも問いかけ話し合っている。	入職時研修や入職後も定期的な研修を行うとともに、申し送り会議などで、接遇・マナー・倫理について話し合う機会も設けています。利用者一人ひとりの人格や個性を尊重し、尊厳や自尊心を傷つけることのないよう、言動や対応に十分留意しています。また、個人情報や守秘義務についても周知徹底しています。居室への入室、排泄支援を行う際にはプライバシーや羞恥心に配慮して対応しています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が随時に職員に希望を伝えられる環境を設定し、職員側も傾聴しご利用者本人が自己決定できるように働きかけている。	/		/
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が相互にフォローする事で、ご利用者のペースを大切にしたケアを行なっている。 食器拭きや体操など日課を作ることで生活にリズムを作る様配慮している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者個々の個性を尊重し、衣類の自己決定が難しい方への支援にも「その方らしさ」が反映できる様に思案している。			
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嗜好や分量にも配慮している。下げ膳等は可能にご利用者は自主的に行なって下さる。又、調理や片付け等に参加して下さるご利用者もいる。 また、お誕生日や行事などで機会を設け、食べたいものを選んでいただいている。	食材はレシピ付きで業者から発注し、職員が調理していますが、できる方は調理や片付け、下げ膳などを手伝っていただくよう声かけして、残存能力の維持につなげています。完食していただけるよう嗜好や分量にも配慮して食事を行っています。誕生日や行事の日には利用者に食べたい物を決めていただくようにしています。時には敷地内で栽培して収穫した野菜で一品作ることもあります。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	以前は職員が持ち回りでメニューを考えていたが、栄養バランスに偏りがあり現在は材料配達業者の管理栄養士に依頼し、3か月に1度程度、意見交換会を開いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科を導入し、予防歯科として月に4回、歯科衛生士の口腔ケアを任意で行う事が出来る。口腔ケアマネジメントを提携歯科クリニックと協働で行い職員のケアの質を高めている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々のパターンや状況を把握し自立が継続できるように支援している。又、排泄チェック表を活用し個々の排泄のリズムを整えている	排泄チェック表を用いて、一人ひとりの排泄状況の把握し、時間やタイミングを見計らった声かけによるトイレ誘導で、排泄の自立に向けた支援を心がけています。失敗を減らせるよう、カンファレンスやモニタリングで支援方法を検討しながら支援を行っています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師、看護師とも連携をとり、便秘予防ができるように取り組んでいる。便秘時には医療と連携し適宜頓服を使用するが、そうならない為に飲み物をココアに変更したり、工夫している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人の意思を尊重する事を基本とし、介助者も随時に同性介助ができるようにしている。また入浴を嫌う方には気の合う職員を配置することで苦手意識を緩和している。	本人の意思を尊重した入浴支援を基本とし、随時同性介助ができるようにしています。また、週2回の入浴を目安とし、入浴日や時間は本人の希望を尊重しながら対応しています。安全安心に入浴していただくため、入浴前にはバイタルチェックと本人の希望を確認したうえで入浴を促すようにしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心できる環境を整えるように配慮している。極力日中に離床するようお声掛けをし、昼夜の活動、休息にメリハリをつけている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のレベルにあった服薬介助を行なっている。嚥下のレベルが低下している方も増えてきている為、お薬ゼリーを用いて飲み込みに工夫をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で個々の方が「楽しい」と感じられる事を提供できるように心がけて支援を行なっている。月次で行事を行い季節感の感覚と楽しみを連動させている		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自由に生活できるように支援している。また、特別な場所への外出希望は御家族に依頼してご協力頂き支援している。 新型コロナウイルス蔓延により現在は外出の支援ができない状況である。	日常的な外出支援は天気や気候、利用者の体調に配慮しながら周辺を散歩にお連れしたり、敷地内で外気浴を行うなどして外気に触れる機会を設けていました。また、地域行事への参加やケアプラザで開催されるサロンに家族と参加している方もいましたが、現在は新型コロナウイルス蔓延により、外出支援は自粛しています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の判断の能力のレベルによりホーム預かりや個人の現金所有として支援している。また、随時の買い物依頼への支払いも御家族の了解を得た上、柔軟に対応している。 ホーム内にミニコンビニ設置し飲み物など買い物をされている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の固定電話を使用し、ご本人からの申し出や外線電話の取次ぎを行い、手紙の投函等の支援を行っている。 携帯電話の利用者が複数名おり出来る限り自由に利用できるよう支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い環境を提供できる様に心がけている。法人の理念として5S1U（1Uは美しさ）運動があり、快適な空間を維持している。利用者自身で作成した季節の絵や書道で書いたものを飾ることで生活の質や居心地の良さを提供している。	法人理念の1つに5S1U運動を掲げており、共有空間は皆で過ごすことから常に整理整頓を心がけ、快適に過ごせる空間を維持しています。壁にはレクリエーションで作成した作品や季節感を取り入れた作品を飾ることで、無機質な空間にならないよう留意しています。平屋建ての造りを活かして、日中はユニット間を自由に行き来できるようにすることで、利用者同士の交流などができるようにしています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのテーブルやソファを活用し工夫している。日勤帯はユニット間の行き来が出来るようにしており、自由に交流されている。レクリエーションや家事活動により利用者同士が交流できるよう働きかけている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族にも御協力して頂いて工夫している。ボランティアさんと作成した手芸品など居室に飾り生活に彩りが出ている。寝たきりの状態の方であっても、たとえ必要が無くても、カレンダーや時計など、日常生活雑貨を必ず置くようしている。	エアコン、クローゼット、ベットは完備されています。安心して過ごせる居室づくりを行ううえで、家族の協力は必要不可欠であり、入居時には自宅で使っていた家具を中心に思い出の品を持ち込んでいただくよう伝えています。重度化して寝たきり状態になってしまった方であっても、カレンダーや時計などの生活雑貨を置くようにして、生活感を出すようにしています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のご利用者が安心して自立した生活が送れるように環境づくりを行なっている。本人の能力を過不足なく把握することが重要である。		

目 標 達 成 計 画

事業所 グループホーム都筑の春

作成日 令和3年9月13日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	介護人材の育成	外国人雇用の推進、教育	外国人受け入れ後の教育指導、日本人職員やご利用者様へ偏見、差別の無い環境作り	1 2 ヶ月
1	35	新型コロナ等災害時の対応	災害時に対応できるような環境等準備する。	災害計画作成、訓練の実施、研修の実施	1 2 ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	グループホーム都筑の春
ユニット名	西の家

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を踏まえて日々のケアを実践しています。 1、人間が主体である 2、連帯の輪を無限に広げていく 3、日に日に新たな今日を創造していく		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会にも加入し、町内会との交流も深まってきている。 地域の祭り等は新型コロナにより中止が多く、交流はできていないが町内の落ち葉拾いや清掃などには参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の中学校の職場体験を受け入れており、介護の基本等を伝えるようにしている。（中止となっている） また毎年地域の小学校に認知症について講演している。（昨年は中止、本年は開催予定）地域により近い存在を目指している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	知見を有する方々が参加されていることで災害時の対応など具体的な協議ができ防災訓練などの参加を呼びかけている。 身体拘束等の適正化委員会への意見を頂いている。 現在書面会議にてご意見いただいている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括センター職員に運営推進会議への参加をお願いしている。 ケアプラザのサロンへ毎月ご利用者と家族と参加するようになった。（現在中止）		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の定義を理解し、現場において同様のことが無い様にケース会議にて情報を共有している。身体拘束等の適正化に関する指針を設け委員会を設置し、多岐にわたるテーマで意見交換をしている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業部研修、外部研修等に参加している。又、研修内容を事業部内で共有し意識している。高齢者の虐待に係る点検、アンケート実施後、職員会議にて話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業部研修、外部研修等に参加している。又、研修内容を事業部内で共有し意識している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に十分に時間を取り、随時に質問を受け、不安や疑問等に説明する機会を設けている。改定時には文書にての同意、家族会にて説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等に話を聞く機会を設け、意見をカンファレンスにて共有し検討している。また年に2回の家族会を開催しており（現在は活動報告書での対応）運営方針の再確認や意見を取り入れている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なカンファレンスの場を設定し、情報収集を行い検討している。 また随時職員と個別でのヒアリングの場を設けている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	残業時間の軽減や有給休暇の取得を呼びかけ健康管理に努めている。 資格により給与が上がるシステムがありより上級の資格を取得できるよう支援している		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護人材が育たない、足りないなかで、外国人職員の雇用が必須となっている。 ご利用者様、日本人職員とのコミュニケーション、環境改善に努めている。 外国の方が安心して働ける環境、日本人職員が教育しやすい環境づくりを心がけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GH連絡会、ブロック会等に可能な限り参加しネットワークを築けるようにしている。 区の研修や消防署の意見交換会などでも顔を合わせる機会が増えている。 (現在はリモートでの交流となっている)		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人や御家族からの情報を素に安心して生活していただける場所である事を受け入れて頂けるよう声の掛け方、傾聴の仕方を工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や契約の折に状況を聞く機会を設け、御家族の不安が最小限になるように努めている。段階ごとにご様子を連絡し、気兼ねなく面会に来れる様配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現段階で何が必要で、何ができるかを考慮した支援に努めている。 P D C Aを1ヶ月を目安に行い、介護計画を更新する。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意思を尊重しながらも職員が寄り添い、生活を共有する関係を築いている。 半面馴れ合いに成らないよう、利用者としてサービス提供者という位置づけは忘れないよう周知している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人が自己実現を叶えるための一翼を担っているのがご家族であることを、常に発信し続けている。 状態の変化や認知症への理解を適宜報告し円滑な家族関係になるよう支援している。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個人情報保護を念頭に置きながらも、面会等の制限をせず、交流を保てるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性等も考慮しながら職員が介入してご利用者同士が交流を図れる様にしている。 家事活動やレクリエーションを中心に利用者同士がこにゆにケーションを取れるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も郵便物の転送を行ったり、必要に応じて電話連絡も行っている。 また退去後も質問などあった際は助言を行っている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のやり取りからご本人の意向を把握している。 又、極力ご本人本位に検討している。 一人一人の尊厳を維持していくために日々尽力している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に情報収集している。 また、ご家族の面会時も適宜生活歴や嗜好など伺っている。また若いころに好きだったことなど思い出せる様支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日勤、夜勤の申し送り等で個々の身体情報を報告している。 どのような言動がありどう行動されたか個人記録などに残しケアに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリングによりカンファレンスで情報を共有し、検討したものをアセスメントにおとしこみ、介護計画に反映させている。かかりつけ医師、歯科医師、定期訪問看護師、訪問マッサージの意見を介護計画に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の情報を共有して見直しに活かしている。排せつや水分表など個別に必要な方へのアプローチも行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	マニュアルも重要視し、尚且つ柔軟に対応している。ご家族の希望により入浴サービスも取り入れている。訪問歯科、訪問マッサージなど必要に応じ対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方にて多彩な活動を行い（現在は中止）ご利用者の生活が豊かになるように支援している。職員に書道の師範がおり、定期的に行っている。職員や家族も地域資源と考えている		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内の医療連携充実に伴い、主治医、看護師とも良い関係が築けている。又、定期的な訪問受診により適切な医療を受けられる様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に看護職員が訪問し、ご利用者の健康状態を把握し、介護職員とも情報交換をし情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時等に必要な情報を速やかに伝え、病院窓口とも関係を密にできるように心がけている。退院時の調整など迅速に対応している。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約の際、重度化・終末期に関わる指針を示して説明同意を得ている。 家族会、かかりつけ医と家族の面談の機会を設けている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、職員が共有している。定期的訓練ではダミーを使い救命措置が行えるよう訓練している。 地域消防団の協力で救命、救急訓練依頼をしたが、コロナ禍により延期。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回の定期訓練を行っている。地域とも相互に援助できるように話し合いを行っている。 火災だけでなく、水害、地震、防犯の訓練も実施を予定している。 新型コロナウイルス等感染症対策も必須となっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの概念を理解しご利用者を尊重する対応を行なっている。 概念だけでなく、自分だったらどう感じるだろう。ということも問いかけ話し合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が随時に職員に希望を伝えられる環境を設定し、職員側も傾聴しご利用者本人が自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が相互にフォローする事で、ご利用者のペースを大切にしたケアを行なっている。 食器拭きや体操など日課を作ることで生活にリズムを作る様配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者個々の個性を尊重し、衣類の自己決定が難しい方への支援にも「その方らしさ」が反映できる様に思案している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嗜好や分量にも配慮している。下げ膳等は可能なご利用者は自主的に行なって下さる。又、調理や片付け等に参加して下さるご利用者もいる。 また、お誕生日や行事などで機会を設け、食べたいものを選んでいただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	以前は職員が持ち回りでメニューを考えていたが、栄養バランスに偏りがあり現在は材料配達業者の管理栄養士に依頼し、3か月に1度程度、意見交換会を開いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科を導入し、予防歯科として月に4回、歯科衛生士の口腔ケアを任意で行う事が出来る。口腔ケアマネジメントを提携歯科クリニックと協働で行い職員のケアの質を高めている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々のパターンや状況を把握し自立が継続できるように支援している。 又、排泄チェック表を活用し個々の排泄のリズムを整えている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師、看護師とも連携をとり、便秘予防ができるように取り組んでいる。 便秘時には医療と連携し適宜頓服を使用するが、そうならない為に飲み物をココアに変更したり、工夫している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人の意思を尊重する事を基本とし、介助者も随時に同姓介助ができるようにしている。また入浴を嫌う方には気の合う職員を配置することで苦手意識を緩和している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心できる環境を整えるように配慮している。極力日中に離床するようお声掛けをし、昼夜の活動、休息にメリハリをつけている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のレベルにあった服薬介助を行なっている。嚥下のレベルが低下している方も増えてきている為、お菓ゼリーを用いて飲み込みに工夫をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で個々の方が「楽しい」と感じられる事を提供できるように心がけて支援を行なっている。月次で行事を行い季節感の感覚と楽しみを連動させている		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自由に生活できるように支援している。また、特別な場所への外出希望は御家族に依頼してご協力頂き支援している。新型コロナウイルス蔓延により現在は外出の支援ができない状況である。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の判断の能力のレベルによりホーム預かりや個人の現金所有として支援している。また、随時の買い物依頼への支払いも御家族の了解を得た上、柔軟に対応している。ホーム内にミニコンビニ設置し飲み物など買い物をされている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の固定電話を使用し、ご本人からの申し出や外線電話の取次ぎを行い、手紙の投函等の支援を行っている。 携帯電話の利用者が複数名おり出来る限り自由に利用できるように支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い環境を提供できる様に心がけている。法人の理念として5 S 1 U（1 Uは美しさ）運動があり、快適な空間を維持している。 利用者自身で作成した季節の絵や書道で書いたものを飾ることで生活の質や居心地の良さを提供している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのテーブルやソファを活用し工夫している。 日勤帯はユニット間の行き来が出来るようにしており、自由に交流されている。 レクリエーションや家事活動により利用者同士が交流できるよう働きかけている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族にも御協力して頂いて工夫している。ボランティアさんと作成した手芸品など居室に飾り生活に彩りが出ている。 寝たきりの状態の方であっても、たとえ必要が無くても、カレンダーや時計など、日常生活雑貨を必ず置くようしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のご利用者が安心して自立した生活が送れるように環境づくりを行なっている。 本人の能力を過不足なく把握することが重要である。		

目 標 達 成 計 画

事業所 グループホーム都筑の春

作成日 令和3年9月13日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	介護人材の育成	外国人雇用の推進、教育	外国人受け入れ後の教育指導、日本人職員やご利用者様へ偏見、差別の無い環境作り	1 2 ヶ月
1	35	新型コロナ等災害時の対応	災害時に対応できるような環境等準備する。	災害計画作成、訓練の実施、研修の実施	1 2 ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。